

令和6年度 学校評価アンケート集計 自己評価 回答数63 回収率100%

				令和6年度	令和5年度			
【評価尺度】	4：十分達成できている 3：どちらかという達成できている 2：どちらかという達成できていない 1：ほとんど達成できていない			評価平均	達成率%	評価平均	達成率%	
評価項目	評価の観点	目標	No	具体的方策				
<b>1. 学校経営</b>				<b>1 学校経営</b>	<b>3.4</b>		<b>3.7</b>	
(1)教育目標	教育目標、経営目標、本年度の努力目標の設定とその具現化に向けた取組	児童生徒や学校、地域の実情を踏まえて、経営方針等を設定し、教職員及び保護者との共通理解のもと、その具現化を図る。	1	学校は、前年度の学校評価及び学校の実情等を踏まえた上で、学校経営の方針や努力目標を適切に設定している。	3.3	100	3.7	100
			2	学校は、本年度の経営方針や努力目標を、自校職員や保護者、関係機関と共有している。	3.3	100	3.7	100
			3	学校は、本年度の経営方針や努力目標を適切に評価し、改善・解決につなげている。	3.4	98	3.6	100
(2)学部経営	各学部目標の設定とその具現化に向けた取組	学級経営方針等に基づき、各学部の目標を設定し、その具現化を図る。	4	学校は、各学部の目標等に関して、学期ごとに評価や反省を行いながら、改善・解決につなげている。	3.5	98	3.7	100
(3)学級経営	学級経営の目標とその具現化に向けた取組	学級経営方針等に基づき、学級経営案を立案し、その具現化を図る。	5	学校は、学級担任が学校・学部経営方針を踏まえて、学級経営案を担任間で協議して作成し、それに基づく学級経営を適切に行っている。	3.4	100	3.6	100
<b>2. 教育活動</b>				<b>2 教育活動</b>	<b>3.4</b>		<b>3.6</b>	
(1)教育課程の編成	児童生徒の実態等に応じた適切な教育課程の編成	児童生徒の一人一人の「生きる力」を育むことを目指した教育課程を編成する。	6	学校は、児童生徒一人一人の「生きる力」を育むに当たり、学部段階間をつなぐ視点である「身に付けてほしい力」を意識して教育課程を編成するとともに、そこの教育の内容を定期的に点検している。	3.3	98	3.6	100
(2)各教科	教科指導等の充実	児童生徒の実態に応じて教科指導等の充実を図る。	7	学校は、児童生徒の実態に応じて、教科指導等の充実を図っている。	3.3	97	3.5	98
(3)特別の教科道徳	道徳教育の充実	豊かな道徳的諸価値についての理解を基に、道徳性を養う。	8	学校は、生命の大切さや思いやり、信頼の心など、豊かな人間性や社会性を養うことに努めている。	3.5	100	3.6	100
(4)特別活動	各活動、学校行事の充実	児童生徒の実態に応じた内容を踏まえて、各活動・行事を計画・実施する。	9	学校は、各活動・学校行事における活動のねらいを明確に設定した上で指導を行っている。	3.4	97	3.6	100
			10	学校は、児童生徒の実態に応じて、自主的、実践的に取り組むことができるように活動内容を工夫している。	3.4	100	3.6	100
			11	学校は、前年度の反省を生かして、各活動・学校行事における日程や場所、活動内容を検討している。	3.4	97	3.7	100
	交流及び共同学習の充実	交流相手校の理解と協力を得て、相互理解を深める学習を行う。	12	学校は、交流先となる地域の小・中学校や高等学校の担当者と連携し、児童生徒の相互理解が深まるような交流及び共同学習に取り組んでいる。	3.5	100	3.7	100
(5)総合的な学習の時間	総合的な学習の時間の充実	児童生徒の実態等に応じて目標及び内容を設定し学習を行う。	13	学校は、児童生徒の実態等に応じて適切に目標及び内容を設定し、総合的な学習（探究）の時間に取り組んでいる。（実施している学年のみ評価する）	3.3	94	3.4	100
(6)自立活動	自立活動の指導の充実	障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、社会参加する資質を育成する。	14	学校は、児童生徒一人一人の障害の状態や程度、発達の段階を、発達検査やチェックリスト等により的確に把握しよう努めている。	3.5	100	3.7	100
			15	学校は、児童生徒の指導に関わる担任、自立活動専任、学習グループ担当者が、適宜情報交換等を行いながら指導を進めている。	3.5	98	3.7	100
(7)指導計画	年間指導計画と個別の指導計画との関連と活用に関する取組	個別の指導計画の有効活用を図る。	16	学校は、年間指導計画に基づいて、児童生徒一人一人の個別の指導計画を作成し、その計画に基づき、授業を行っている。	3.5	98	3.7	100
(8)授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	個別の指導計画に基づき授業実践のP-D-C-Aサイクルがわかりやすい授業づくりを行う。	17	学校は、児童生徒一人一人の個別の指導計画に基づいて、担任（担当者）間で、集団学習や個別学習における授業計画や授業評価、授業改善を行い、わかりやすい授業づくりに努めている。	3.4	98	3.5	95
			18	学校は、児童生徒の実態や興味・関心に応じて、教材を作成したり、教育機器等を活用したりするなどして、児童生徒に見通しをもち、自己選択・自己決定を促したり、表現するための指導方法を工夫している。	3.4	98	3.6	100
			19	学校は、地域の資源を有効に活用し、学校内外での体験学習等を計画的に実施している。	3.4	98	3.5	100
			20	学校は、担当教員間で事前に共通理解を図った上で、適切に学習評価を行っている。	3.4	97	3.5	100
(9)キャリア教育	キャリア教育の充実	児童生徒のニーズに応じたキャリア教育を行う。	21	学校は、児童生徒の高等部卒業後の姿を想定して、計画的にキャリア教育を行っている。	3.2	92	3.4	97
(10)進路指導	進路の情報提供及び関係機関との連携	個別の教育支援計画の作成と活用により、医療や福祉等の関係機関との連携を深める。	22	学校は、児童生徒や保護者に進路に関する情報を提供したり、個別の教育支援計画を有効に活用し、児童生徒や保護者の進路に関する願いを踏まえ、関係機関の理解と協力を得ながら組織的かつ計画的な進路指導を行っている。	3.2	94	3.5	100
(11)生涯学習	生涯学習への意欲の向上への取組の充実	学校図書館や地域の劇場等の施設の利用を図り、生涯学習への意欲を高める。	23	学校は、スポーツ活動や文化活動などを含め、児童生徒が自己実現を図るための生涯にわたる学習活動全般を楽しむことができるよう、各種施設を利用したり、多様なスポーツや文化芸術活動を体験したりすることができるよう工夫している。	3.3	98	3.5	100
(12)人権教育	豊かな人権感覚の醸成	人権意識の向上と実践に努める。	24	学校は、豊かな人権感覚を養うために、人権教育に関する校内研修を実施し、指導に生かしている。	3.3	98	3.5	100
			25	学校は児童生徒に寄り添った指導を行っている。（新）	3.6	100		
(13)食育	食育の推進と個に応じた食事指導の充実	生きる力につながる食育と食に関する力を高める。	26	学校は、食育に関する指導の充実及び児童生徒一人一人の食機能に応じた食形態の工夫や安全な食具等の活用を図っている。	3.5	100	3.7	100

3. 組織運営			3 組織運営		3.4		3.6			
(1)校務分掌	校務遂行にかかる適切な役割分担	分掌部相互の連携を図りながら校務を円滑に行う。	27	学校は、各分掌部の業務分担任を明確にし、必要な校務を円滑に処理している。	3.4	98	3.6	100		
			28	学校は、各分掌部の業務等の記録を適切にまとめたり、学期毎に評価や反省を行ったりするなど、改善・充実に努めている。	3.4	98	3.6	100		
(2)各種委員会	校務遂行に必要な委員会の設置	必要な委員会組織により課題の改善・解決を図る。	29	学校は、各種委員会の中で、学校が抱える諸課題の改善・解決に努めている。	3.4	97	3.6	100		
(3)職員研修	教職員の資質及び専門性の向上	特別支援教育に関する専門性の向上を図る。	30	学校は、校内での研修会や事例検討会、授業研究等を進んで計画し、教育実践に役立てている。	3.5	100	3.7	100		
			31	学校は、教育・医療・福祉等、外部の専門家による研修会を実施し、専門性を高めている。	3.5	98	3.7	100		
(4)職場環境	日常業務の点検	働きやすい職場環境づくりの推進する。	32	学校は、働きやすい職場環境づくりの一つとして、週1回のノー会議デー、ノー残業デーを設定している。	3.6	95	3.8	100		
			33	学校は、「プラス1推進運動」の一つとして、各種会議等の見直しや点検を行っている。(1～2回)	3.3	97	3.5	95		
4. 教育環境			4 教育環境		3.5		3.7			
(1)教育環境の整備	健康や安全面に關わる環境整備	衛生的目つ潤いのある生活環境整備に努める。	34	学校は、校舎内外の整理整頓及び定期的な清掃等により、衛生的で安全な学校環境を維持している。	3.3	92	3.6	100		
			35	学校は、教室の採光(照度)や室温調整、必要な設備や掲示物等、学習に最適な教室環境を整備している。	3.3	95	3.5	100		
			36	学校は、ヒヤリット事例の共有や緊急時の対応マニュアルにより、児童生徒の健康管理や安全管理について共通理解を図っている。	3.6	98	3.7	100		
			37	学校は、緊急搬送や災害避難等の訓練を通して、日頃から児童生徒の非常時の安全確保を意識した活動を行っている。	3.6	100	3.8	100		
	児童生徒の安全及び健康管理を徹底する。	施設設備の有効活用を図り、安全点検等 適切に管理を行う。	38	学校は、保護者や関係機関との連携のもと、安心・安全な医療的ケアの実施や感染症への対策を講じている。	3.5	97	3.8	100		
			39	学校は、定期的な安全点検や備品等の整理を行い、日々の教育活動に支障なく活用できるようにしている。	3.5	98	3.7	100		
学習に關わる環境整備	学習に最適な教室環境の整備に努める。	40	学校は、教材や児童生徒の作品などを工夫して掲示したり、整理整頓するなど教室環境を整えている。(新)	3.5	98					
(2)情報インフラの整備・充実	教育活動の情報化	情報機器の適切な活用に努める。	41	学校は、児童生徒の実態に応じて情報機器の利用ができるように整備している。	3.3	95	3.7	100		
			42	学校は、NEWSポータルサイトや校内LAN、Teamsを有効に活用して校務処理や校内研修を行っている。	3.6	98	3.7	100		
			43	学校は、情報モラル等に関する研修を行うとともに個人情報の保護に努めている。	3.6	100	3.7	100		
5. 地域や社会に開かれた学校づくり			5 開かれた学校づくり		3.6		3.8			
(1)保護者や病棟との連携	相互理解の充実	保護者や病棟の理解と協力を得る。	44	学校は、各活動・学校行事等を計画・実施する際に、保護者や病棟の理解と協力を得るために、事前の説明や説明や相談を丁寧に行っている。	3.5	100	3.7	100		
			45	学校は、保護者懇談会、授業参観、学校行事、PTA活動を計画し、保護者の参加を呼びかけている。	3.6	100	3.8	100		
			46	学校は、連絡帳や学級通信、家庭訪問などを通して、児童生徒の成長等に関する情報を提供している。	3.7	100	3.8	100		
			47	学校は、保護者からの相談に誠実に応じている。	3.6	100	3.7	100		
(2)地域やとの連携	地域支援の充実	特別支援学校として、センター的役割を担う。	48	学校は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校への相談支援や研修会への呼びかけ等を行っている。	3.4	98	3.7	100		
			本校教育活動の理解・啓発	広く地域や関係機関に本校のことを知ってもらう。	49	学校は、学校説明会や学校公開を実施している。	3.7	100	3.8	100
					50	学校は、ホームページを定期的に更新したり、報道機関、学校便り等を活用したり広報活動を行っている。	3.7	100	3.9	100
◆達成率(%)：評価尺度の4と3(達成できている)の全体に対する割合として算出					3.5		3.6			
◆赤色：達成率90%未満 黄色：1・2の評価が10%以上 緑色：評価平均3未満										

【分析と改善策】

<p>・昨年度と比較すると、評価平均は0.1～0.2ポイント下がっている項目が多いが、達成率(3、4の評価が占める率)は上がっている項目も多く、おおよその項目で達成できていると考える。評価平均が下がっているのは、今年度からWEBアンケートとなり、昨年度よりも3の評価数が多くを占めていたからである。1、2の評価が10%以上になる項目はなかった。</p> <p>〈項目17について〉 ・昨年度評価が低かった授業改善については、評価について研究で取り組んだこと、教材教具の工夫により、より分かりやすい授業作りに努めたことから、達成率が向上している。</p> <p>〈項目13について〉 ・総合的な学習(探究)の時間については、主に高等部の評価が低く、来年度に向けて時数の変更と内容を見直した。高等部全学年でそれぞれ探究学習や、探究したことをまとめて伝える学習として新たに単元を設定する。実践しながら評価、改善を行い、より分かりやすい授業作りに努める。</p>	<p>〈項目21、22について〉 ・昨年度よりも評価平均、達成率が低くなった項目である。昨年度は保護者の評価が低く、情報提供に力を入れたことで、保護者の評価は向上した。しかし、キャリア教育と合わせて、職員自身が課題と感じている項目である。進路実現に向けたキャリア教育を充実させるため、進路指導部を中心に全職員で本校のキャリア教育への意識を高める。また、児童生徒、保護者のニーズに応じた進路情報を提供していくために、小中学部の職員も高等部卒業後の進路先に関する情報に触れる機会を増やす。</p> <p>〈項目34について〉 ・校舎内の整理整頓については、物の増加と収納場所の少なさから評価が低くなった項目である。スペースが限られているからこそ、常に整理整頓が必要となる。共用部分は関係する分掌部が配置場所を固定しているため、使用した場合は元に戻すことを徹底したい。また、不要なものは適宜処分していくようにする。</p>
---	--